令和6年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	11	学校名	藤枝特別支援学校 焼津分校	校長名	岩附 祥子
------	----	-----	---------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア 安全・安心	命を守る危機管理・安全管理体制の整備と対応力の向上	・危機管理マニュアルを活用し、主体的・具体的に行動できた教員（自分の動きが分かる教員） 100%	100% (平均3.5点)	A	・職員会議で危機管理マニュアルを反復確認した(4回)。危機場面を想定して避難訓練(6回)を行うことで、自分の役割や具体的な行動が分かった。 ・臨時情報発表時や発災後の対応を整えていきたい。
		・安全点検、スクールクリーンを有効に活用し、環境整備や安全対策を行った教員 100%	100% (平均3.7点)	A	・安全点検を複数人の視点で行い、整備が必要と思われたことへは迅速に対応できた。引き続き安全管理に努めていきたい。
	自他を尊重し合う 人権感覚の涵養	・自分から相手に伝わる挨拶や感謝の言葉が言えた生徒・教員 100%。挨拶をされた保護者・参観者 100%	生徒 89% 教員 100% 保護者 97% 参観者 100% (平均3.7点)	A	・教員は生徒の手本になるよう積極的に挨拶等を行った。 ・生徒も教員も自分から挨拶や感謝の言葉が伝えられるよう高め合っていきたい。 ・保護者評価に教員の言葉遣いについて指摘があったので、改善を図りたい。
		・共感や相手を思いやる言動が取れた生徒・教員 100%	生徒 89% 教員 95% (平均3.5点)	A	・生徒の言動の背景を共有して生徒指導を行った。 ・生徒との何気ないやり取りの中で、相手を認め対応することの大切さが再確認できた。自分を認めてくれているという気持ちを持つよう留意していきたい。
		・人権教育全体計画に基づいて多様性や個々の良さを認め合う指導を行った教員 100%	100% (平均3.6点)	A	・一人一人に良さがあることに触れ、人権意識を様々な場面で高める取組を進めてきた。 ・生徒から教員の言動についての意見があった。教員の人権意識・感覚を更に高めたい。
	・人間関係等の困りごとの積極的把握に努め、早期に組織的に対応したと答える教員 100% 早期に対応してもらえたと答える生徒・保護者 100%	教員 94% 生徒 84% 保護者 97% (平均3.5点)	A	・「生徒の困りごとや相談は共有して迅速に対応できた」という教員評価の一方、生徒からは「特定の先生は聞いて終わり」という評価があった。 ・全ての生徒が「対応してもらえた」と思えるよう、組織として「対応」に力を注ぎたい。	
イ 授業	生徒が学びを深め、確かな成長を感じる授業の充実	・授業をとおり「学んだことが分かる」「成長を感じる」ことができた生徒・保護者 90%	生徒 93% 保護者 95% (平均3.6点)	A	・生徒、保護者から「成長の自覚がある」等の声が聞かれた。 ・生徒が「何を学び、何ができるようになったのか」がわかる授業づくりを継続していきたい。

		<ul style="list-style-type: none"> 学習評価をし、教材研究と授業改善を行った教員 100% 	94% (平均3.4点)	B	<ul style="list-style-type: none"> 過去の教材データも活用し、生徒の実態に合うよう教材研究をし、授業改善を行った。 学習評価の観点で話し合う場を持ち、授業改善につなげたい。
		<ul style="list-style-type: none"> 授業でICT端末を使い課題解決に向け活用することができた生徒・教員 100% 	生徒 86% 教員 94% (平均3.4点)	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒は得意・不得意で評価。 ICT 端末を活用した授業が増えた。タブレットで映像を活用した取組は有効だった。 BYOD の導入に伴い、ICT 活用を更に進めていきたい。
	授業改善と効果的な業務遂行につながる専門性の向上	<ul style="list-style-type: none"> 研修での学びを授業改善や生徒指導に反映できた教員 90% 	83% (平均3.2点)	B	<ul style="list-style-type: none"> 研修を授業や生徒理解、生徒対応等に活用しているが、今以上に授業を充実させていきたい。 教員が何を学びたいのかを確認し、研修の内容を決めたい。
		<ul style="list-style-type: none"> 業務の目標や重要点とスケジュール（期限）を自分で考え、効果的に業務を行った教員 90% 	89% (平均3.3点)	B	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度の反省を活かし、期限を考え効果的に業務を行えた。 文書提案だけでなく、実際にコミュニケーションを取り、確認することが必要である。
ウ 連携	お互いの理解が深まり、学びある交流・共同学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> 交流活動の目標を達成することができた生徒 100% 	82% (平均3.2点)	B	<ul style="list-style-type: none"> 交流の場が苦手という生徒もいるが、様々なことを学び、経験できている。 事前の授業で生徒が目標に向かう気持ちを高め、学びや成長が感じられる交流を続けたい。
		<ul style="list-style-type: none"> 双方の理解や成長を促す交流活動ができたと評価する教員、保護者、交流相手 90% 	教員 100% 保護者 95% 交流相手 97% (平均3.5点)	A	<ul style="list-style-type: none"> 物を介した交流活動が多いため、互いに自然な交流ができている。 保護者にも交流活動の目標や内容、成果を周知していきたい。
	「より良い生活」「なりたい自分」に向けた本人の歩みを支える連携	<ul style="list-style-type: none"> 本人中心で、個別の教育支援計画・個別の指導計画を作成し、活用した生徒・教員・保護者 100% 	生徒 89% 教員 86% 保護者 91% (平均3.3点)	B	<ul style="list-style-type: none"> キャリア面談は有意義だが、その面談で立てた目標が「個別の教育支援計画・指導計画」に反映されているという認識が教員・生徒ともに弱かった。 キャリア面談を行う度に、意義や活用の仕方を職員・生徒・保護者で確認し合い、「個別の教育支援計画・指導計画」に沿った取組につなげたい。
<ul style="list-style-type: none"> 保護者や職場実習先、関係機関等と情報を共有し「なりたい自分」の実現に向けた支援を行った教員 100% 		100% (平均3.5点)	A	<ul style="list-style-type: none"> 「なりたい自分」に向け、自分の強みを意識化した。自分の強みを実習先で発揮できた生徒は自信をつけ、更に成長に向け努力する良いサイクルができた。 引き続き保護者に進路情報を発信し、「なりたい自分」の実現に向けた支援を継続していく。 	